

分野： (3) 気管支ぜん息・COPDの動向等に関する調査研究
① 気管支ぜん息の動向等

(3)-①-i)

申請課題名： i) ライフサイクルから考えるぜん息の長期予後と寛解・増悪に関わる因子の解明に関する研究

調査研究代表者氏名： 藤澤 隆夫

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	1人	3人	2人	0人	0人	3.83
(3) 研究計画の妥当性	1人	5人	0人	0人	0人	4.17
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						4.00
(6) 総合評価(第2評価)	1人	5人	0人	0人	0人	4.17
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						4.06

2 記述評価

- ・極めて有意義な研究結果がでることが期待される調査研究であり、完成が待たれる。
- ・レジストリーによる前向き研究への発展と実行、その結果に期待したい。後向き研究では回収率や協力への同意率の低いコホートがみられ、得られた結果は参考にとどまると考えられる。成人は喘息、とくに重症喘息のn数が低い点で結果の普遍性に関する検証が必要である。
- ・小児サンプル数の集積に期待。
- ・研究が順調に進められている。
- ・50年のデータについて、50年後にぜん息、あり、なし の差にかかわる因子について治療、病態などから分析を期待したい。
- ・レセプト分析での、ぜん息と糖尿病との関係は普遍的なのかどうかの分析を文献的も含めて解析を。
- ・本邦における気管支ぜん息の動向を多面的に解析している。
- ・複数のコホートを解析することになるので、各コホートの持つ特徴(長所、短所)を整理して、解析結果を提示することが必要と考えられる。